8 詩

学習目標
- 詩の種類の表し方や、表現技法を覚えよう。
- 情景描写や印象的な表現に着目し、詩の内容・主題をつかもう。

要点のまとめ

詩の種類

- 詩には、用語・形式による分類方法がある。

用語上の分類	文語詩	現代では使われないことが多い古い言葉や文法（＝文語）を使って書かれた詩。
	口語詩	現代の話し言葉（＝口語）のような文体で書かれた詩。
形式上の分類	定型詩	五音・七音など、音数に一定の決まりがある詩。
	自由詩	音数に一定の決まりがない、自由な形式の詩。
	散文詩	普通の文章（＝散文）の形式に詩的な感動を盛り込んだ詩。

※他に、内容（叙情詩・叙景詩・叙事詩）で分類する場合もある。

- 用語と形式を組み合わせて、「〇語〇〇詩」と表す。（用語上の分類／形式上の分類）

表現技法と効果

※一般の文章や、短歌・俳句に共通する技法を含む。

比喩	直喩	「まるで……」「……ようだ」などを使ってたとえる方法。 効果 心情や情景がわかりやすくなる。 例 風に吹かれる稲穂はさざ波のようだ。
	隠喩（暗喩）	「まるで……」「……ようだ」などを使わずにたとえる方法。 効果 強い印象を与える。 例 彼の心は燃えさかる炎だ。
擬人法		人でないものを人にたとえて表す方法。 効果 生き生きとした印象を与える。 例 空では太陽が笑っている。

反復	同じ言葉を繰り返す方法。 効果 リズムが生まれ、情景や心情が強調される。 例 まっかな まっかな まっかなトマト
対句	構成や意味が対応するように言葉を並べる方法。 効果 まとまりやリズムが生まれ、整っている印象を与える。 例 青い空 白い雲
体言止め	文末や行末・句末を体言（名詞）で結ぶ方法。 効果 *余韻を生んだり、きりっとした印象を与えたりする。 例 夜空に瞬く星々（体言） （注）余韻＝読んだ後に残る味わい。
倒置	言葉の順序を通常の言い方と変える方法。 効果 リズムが生まれ、情景や心情が強調される。 例 咲いているよ、小さな花が（→小さな花が咲いているよ）（通常の言い方）
省略	文章や言葉を途中で止めて、後を省略する方法。 効果 省略部分を想像させることで、作品に広がりが生まれる。 例 あなたは未来を生きる 輝きに満ちた未来を（省略）

詩の捉え方

- **場面・情景**…時・場所・風景・人物を捉える。（作者がどのような視点で何を見ているか）
  - 作者の心情を象徴していることもある
  - 時間の流れ・場所の移動などの変化も考える
- **内容・心情**…表現技法や詩の構成を捉える。
  - 強調・余韻など
  - 改行位置の確認・各連の内容やつながりの把握など
- **主題**…詩の中心となる行・中心となる連を押さえる。
  - 何度も反復されている行・倒置などの表現技法が使われている行に注目
  - 詩の題名が主題を表すこともある
  - 他の連と言葉遣いや構成に違いがある連・最終連に注目

確認問題

●○○　次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

鹿（しか）　　村野四郎（むらのしろう）

鹿は　森のはずれの
夕日の中に　じっと立っていた
彼は知っていた
小さい額が狙われているのを
けれども　彼に
どうすることが出来ただろう
彼は　すんなり立って
村の方を見ていた
生きる時間が黄金のように光る
彼の棲家（すみか）である
大きい森の夜を背景にして

(1)　詩の種類　この詩について、用語・形式のうえで分類した場合の詩の種類を、漢字五字で書きなさい。

ポイント　用語上では「文語詩」と「口語詩」の区別があり、形式上では「定型詩」「自由詩」などの区別がある。この詩は、現代の話し言葉で書かれており、各行の音数に一定の決まりがないことから考える。

(2)　表現技法　――線「彼は知っていた／小さい額が狙われているのを」とありますが、この二行に使われている表現技法として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　直喩　　イ　対句
ウ　体言止め　　エ　倒置

ポイント　「彼は知っていた」には〝何を〟に当たる言葉がないこと、次の行に〝何を〟に当たる「小さい額が狙われているのを」があることから、語順の変化を捉える。

(3)　内容理解　この詩に描かれている場面として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　鹿に遭遇（そうぐう）した人間が、じっと逃げる機会をうかがっている場面。
イ　人間に狙われた鹿が、なすすべもなくたたずんでいる場面。
ウ　村にいる人間を、鹿がひっそりと見つめている場面。
エ　人里に降りてきた鹿を、人間が棲家の森に帰そうとしている場面。

ポイント　鹿が「じっと立っていた」こと、「小さい額（＝鹿の額）が狙われている」ことから考える。また「けれども　彼に／どうすることが出来ただろう」は〝どうすることも出来なかった〟ことを指していることを捉える。

(4)　鑑賞　この詩についてまとめた次の文の［　　］ⓐ・ⓑに当てはまる言葉を、ⓐは四字、ⓑは八字で詩の中からそれぞれ抜き出しなさい。

▪ 今まさに一つの命が終わろうとする瞬間を切り抜いており、自らの死を受け入れて「［ⓐ　　］」立つ鹿の姿や、死を前にして「［ⓑ　　］」気高い命の輝きを印象的に表現している。

ⓐ［　　］
ⓑ［　　］

ポイント　擬人法・直喩・倒置などの表現技法、対比されている言葉、作者独特の印象的な言葉などに着目しながら、作者が伝えようとしていることの中心を捉える。

演習問題

■□■ 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

広野の花のように

宮澤章二（みやざわしょうじ）

だれの胸の内にも恵まれているはずの
①思いやりのある心は海のように豊かだから
ほんの少しの気配りであってもいいのだ

②だれかがひとりぼっちのとき 声をかける
だれかがころんだとき 手をさしだす
そんな ちょっとした親切な動作も
広野の花のように明るくかおる日がある

だれも気づかぬこと に気づくのは尊い
だれもが 気づいていながらやらぬことを
思いきってやってみるのは 更に尊い

ぼくらは ③歩く道で迷うこと が多いけれど
迷っているまに機会は逃げてしまう
ほんの少しの気配りであってもいいのだ
花のような心を 人に向けてみないか

(1) 詩の種類 この詩について、用語・形式のうえで分類した場合の詩の種類を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 □

ア 文語定型詩　イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩　エ 口語自由詩

ポイント 使われているのは「口語」か「文語」か、音数に一定の決まりがある（↓「定型詩」）か決まりがない（↓「自由詩」）かについて確認する。

(2) 表現技法 ——線①「思いやりのある心は海のように豊かだから」、②「だれかが……手をさしだす」に使われている表現技法として適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。 ① □ ② □

ア 直喩　イ 隠喩　ウ 対句
エ 倒置　オ 体言止め

ポイント ②「だれかが……とき（どうする）」という構成と、内容とが対応している。

(3) 内容理解 ——線③「歩く道で迷うこと」とはどういうことですか。次の文の□に当てはまる言葉を、十字程度で考えて書きなさい。

▪毎日の暮らしの中で□という決断がすぐにはできないということ。

ポイント ——線③の前後の内容を確認する。

第三連	人が気づかないことに気づく 人が気づいてもやらないことをやる（尊い）
第四連	迷っていると機会がなくなる ほんの少しでも気配りをしよう

（何をする機会か）

(4) 主題 作者が読者に伝えたい思いが最も強く表れている部分を、詩の中から一行で抜き出しなさい。 □

ポイント 中心となる連はどこか、訴えかける表現はないかを確認する。

実戦問題

◆◇◆ 次の詩と文章を読んで、後の問いに答えなさい。〈高知〉

針は銀色

陽当(ひあた)りのよい縁側に坐(すわ)って
久々に針を運んでいる

針は銀色
針は銀色

歌のように心にくり返しながら
針の光をたのしんでいる

糸を布目にくぐらせる

この小さな道具の
愛らしい働き

一目一目を小さく進んで
小さな一目をくぐりぬける度に
針は　きらりっと
陽をうけて　光ってみせる

ある日、久々に針を持ったとき、②[　　]の美しさが心にしみました。私はすらすらと詩が書けるたちではありません。筆を持って、何時間もかけて、やっとまとまるのですが、そのまとまるまでの時間、一本の針についてもいろいろに思い考えて、書き上げた後で「ああ、このことに気付いたのだわ」という思いになります。

針の小ささにはじめて気づく思いでしたし「一目一目を小さく進む」ということにもあらためて感動したのでした。

一目一目を小さく進みながら、③一枚の着物が出来上がっていきます。

それは私たちの日々と同じでもあって、一日一日は平凡なかたちで過ぎていても、その日々の重なりが私たちの人生を造ってゆくのです。

一日一日を〝きらりっ〟と光りながら生きてゆかなければと、小さな針から、日々の過ごし方を教えられた思いでした。

〈高田敏子(たかだとしこ)「暮らしの中の詩」より〉

(1) ✪表現技法・表現理解　詩の中で使われている表現についての説明として誤っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　第一連では、自分と針を対句で表現することで、情景を鮮明に描き出している。

イ　第二連では、心の中で反復している言葉の表現が、詩にリズムを生んでいる。

ウ　第三連では、体言止めを用いることによって、余韻を残す表現になっている。

エ　第四連では、擬態語を使って、小さな針の存在の魅力を印象的に表現している。

(2) ✪主題　①[　　]に当てはまる言葉を、詩の中から三字で抜き出しなさい。

(3) 内容理解　――線②「たち」は、ここではどのような意味で使われていますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　状況　イ　性質
ウ　習慣　エ　達人

(4) 文章の把握　――線③「一枚の着物」とありますが、筆者はこれに対応するものとして何を挙げていますか。文章中から六字で抜き出しなさい。

ポイント

(1) 詩の各連の表現を確認する。「擬態語」は〝すらすら〟〝はっきり（と）〟など、物事の様子を表す言葉。

(2) ①[　　]の前後の内容を確認する。「針を持ったとき」に心にしみたのは、何の美しさかを考えながら、詩の内容を確認する。

(3) 「たち」…人が生まれついてもっている傾向のこと。

(4) ――線③の直後の段落に「それは私たちの日々と同じでもあって、……」とある。――線③を含む一文と直後の段落とを比べながら読み、対応を考える。